

自 己 評 価 書

(平成 2 4 年度)

平成 2 5 年 3 月

鳴門教育大学附属中学校

目

次

I	学校の現況及び目的	1
II	評価項目ごとの自己評価	2
	1. 楽しい学校	2
	2. 美しい学校	14
	3. 活力ある学校	20
III	自己評価根拠資料一覧	25

I 学校の現況及び目的

1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属中学校
- (2) 所在地 徳島市中吉野町1丁目31番地
- (3) 学級等の構成
1 学年 4 学級 2 学年 4 学級
3 学年 4 学級 計 12 学級
- (4) 生徒数及び教員数(平成24年5月1日)
生徒数 472 人 教員数 23 人(正規教員)

2 目的

(1) 目的・使命

本校の目的は、附属中学校校則第1条において「小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施すとともに、鳴門教育大学（以下「本学」という。）における生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の実習等の実施に当たることを目的とする」と定めており、本校は義務教育を行う任務とともに、教員養成大学の附属中学校として、次のような使命をもった学校である。

- ① 大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学的な研究を行う研究学校としての使命
- ② 地域の教育諸課題の解明、参観者への指導・助言、文部科学省・県教委・地教委等教育関係機関からの要請による教員派遣など、教育界の発展に寄与する使命
- ③ 鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命

(2) 教育目標

本校は、校則第1条に示されている中学校教育の目的の達成のため、次の教育目標を掲げ、めざす生徒像・教師像・学校像を明確に示している。

知・徳・体の調和的人格の完成をめざし、自主・自立の精神、創造的能力、豊かな人間性をそなえ、国際社会の発展に寄与することのできる心身ともにすこやかな中学生を育成する。

めざす生徒像

- 目標を持ち、自主的、創造的に学ぶ生徒
- 強靱な意志と体を持ち、たくましく生き抜く生徒
- 優しく思いやりの心を持ち、人につくす生徒

めざす教師像

- 生徒を愛し、生徒とともに伸びる教師
- 強い使命感、鋭い教育観をもった教師
- 優れた指導力をもった教師

めざす学校像

- 創造的な知性を磨く学問学校
- 情熱的な意志を鍛える鍛錬学校
- 強健な身体を練る体育学校
- 敬和奉仕の精神に生きる人間学校

(3) 平成24年度重点目標

鳴門教育大学との連携を密にし、中期目標・中期計画・本年度計画の実現に努めながら、次の3本柱5項目から教育目標の具現化を図る。

- ① 楽しい学校
- ② 美しい学校
- ③ 活力ある学校

(4) 評価項目

- ① 楽しい学校

【授業の工夫改善】

- ・ 年間指導計画の立案と実践
- ・ 思考力、判断力、表現力を高める教具、指導方法等の工夫改善

【学ぼうとする意欲・態度の育成】

- ・ 生徒一人一人に自己の学びを認識させる工夫
- ・ 大学と連携した魅力的な授業の実践
- ・ 読書習慣の確立

- ② 美しい学校

【適切なコミュニケーション [美しい言語環境]

- ・ 適切な言語活動を引き出す交流活動の工夫
- ・ 対人関係性の育成（予防教育の推進）
- ・ 人権教育の充実

- ③ 活力ある学校

【信頼され支え合う教師集団】

- ・ 学校目標達成に向けた全教員による取組推進と教員一人一人の資質向上（資質向上プログラムの実施）
- ・ 研究成果の普及 ・ ワークライフバランスの調整

【生活習慣の重要性の啓発】

- ・ 家庭と連携した生活習慣の確立
(早寝、早起き、朝ごはん等による健康管理)

II 評価項目ごとの自己評価

評価項目 1 楽しい学校

生徒が、主体的に活動したり、感動したり、納得したりする授業を展開し、学ぶ楽しさを実感させるために、教員全員が、教材・教具や指導方法等の工夫改善に取り組んだり、大学と連携した魅力的な授業を実践したりしている。

また、こうした授業を通して、生徒の学習意欲を高めるとともに、基本的な学習習慣や態度も育成している。

1 観点ごとの分析

観点 1-1 授業の工夫改善

生徒が主体的に活動したり、感動したり、納得したりする授業が展開できているか。

(1) 思考力、判断力、表現力を高める教材・教具や指導方法等の工夫改善

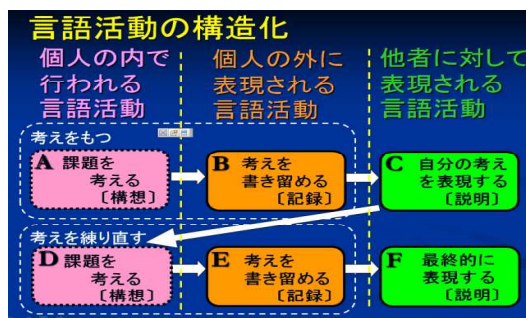
本年度で4年次となった「思考力・判断力・表現力をはぐくむ授業の創造—言語活動の充実と観点別学習評価を生かした指導を通して—」をテーマとした実践研究を進める中で、次の①から⑤に示したように教具や指導方法等の工夫改善に取り組んでいる。

なお、この研究発表会を6月1日（金）に実施し、県内外より400名近い参会者を得た。このことは、本校の研究に対する一定の評価と見てよいと考えるものではあるが、しかし尚、改善の余地も多々あるものと考えている。



① 言語活動の構造化

思考力・判断力・表現力を育むために、言語活動を個人の内で行われる言語活動、個人の外に表現される言語活動、他者に対して表現される言語活動の3つの場面を設け、前述の言語活動の要素を「言語活動の構造化」【右図】のA→B→Cのように組み合わせた。これを→D→E→Fのように繰り返すことで、連続的な思考・判断が促され、思考力・判断力が深まり、その結果、外に表れる表現力も高まると考え、言語活動の構造化を図った。



② 「言語活動の構造化を図った授業」の年間指導計画（評価計画）への位置づけ

各単元（題材）において、観点別学習状況の評価を実施する最適な時期や方法を観点ごとに整理し、観点毎に学習指導のねらいが実現された状態を表した評価規準と、それを見取るための評価方法を示した年間指導計画を作成した【右図】。加えて、これ

単元	学習内容	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・表現	運動の技能	運動についての知識・理解	「言語活動の構造化を図った授業」
3	武1 剣道	○武道の学習に積極的に取り組もうとしている。 ○相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。 ○分担した役割を果たそうとしている。	○技を身に付けるための運動の行い等のポイントを理解している。 ○学習した安全上の留意点を理解している。 【ワークシート】	○剣道では、打ったり受けたりするなどの攻防を展開するための相手の動きに応じた基本動作となる技ができる。 【ワークシート】	○武道の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げていく。 ○技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げていく。 【ワークシート】	知識・技能 伝統的な考え方・基本動作・課題 礼法や基本動作の習得に向けて学習しよう。 評価方法 グループ内の話し合いを觀察する。ワークシートの記述を評価する。

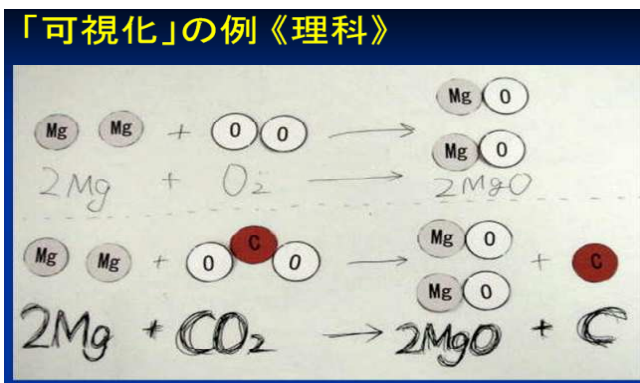
までの本校の研究実践の成果を生かし、言語活動の構造化を図った授業を年間指導計画に位置付け、活用させたい知識・技能、学習課題、評価方法を示した。

③ 言語活動の要素を質的に高めるための効果的な手立て

これまでの実践研究を通して、言語活動の構造化を図った授業を充実させるために、言語活動の各要素において、より質の高い思考・判断・表現ができるように、いくつかの手立てを講じてきた。その例として「可視化」、「活用カード」を紹介する。

ア 可視化

ラミネート加工したA4サイズのスチール板と思考の流れが書き留められる用紙をA4硬質カードケースに入れたものを思考ボードとして使用する。思考ボードに考えを表記することで考えが可視化することができる。その思考ボードを用いてモデルを操作したり、考えを見直したりすることができるようになり、考えをより明確にすることができる。



思考ボードに自分の予想をモデルで可視化した。思考ボードを使って交流し、再考したことを根拠に、課題に対する仮説を持つことができた。



イ 活用カード

課題解決のために必要な基礎的・基本的な知識・技能を指導者が整理・集約した活用カードα、考え方や課題解決に至る過程等を示した活用カードβを作成し活用した。

活用カードα《技術分野》

習得した『知識・技能』を整理・集約

- 全体の大きさの寸法をとり、直方体と見立てて下がきをする。
- 奥行きの縦は水平線に対し、30°にかたむける。
- 立体の縦、横、高さの3辺の比率は等しい。

活用カードβによる「学びの振り返り」の例《理科》

あなたの考えの中に活用した観点を見つけ、用いたものに○を書きましょう。

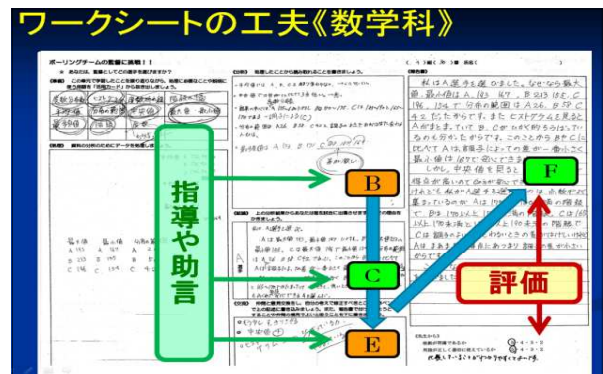
観点	活用した	活用しなかった
① 観点1	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
② 観点2	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
③ 観点3	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
④ 観点4	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
⑤ 観点5	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
⑥ 観点6	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
⑦ 観点7	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
⑧ 観点8	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
⑨ 観点9	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
⑩ 観点10	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>

課題解決に至るまでの考えを自己認識

④ ワークシートの工夫

思考・判断したものが表現でき、生徒の思考の過程や変化が見えやすいものとなるよう、言語活動の構造化に即したワークシートを作成した。

また、このワークシートは、次の「⑤学びの振り返り」においても効果的に活用できた。



⑤ 学びの振り返り

「学びの振り返り」とは、生徒が言語活動の構造化を図った授業、もしくはそれらを含めた一連の単元（題材）において、思考・判断・表現した過程を顧み、その過程を整理したり、自らの思考・判断・表現の変容を確認したり、その変容の理由を知ったりすることを通して、どのような力がついたのかを自己認識することである。このことについては、観点1-2「生徒一人一人に自己の学びを認識させる工夫」で詳しく述べる。

ここで述べた「思考力、判断力、表現力を高める教材・教具や指導方法等の工夫改善」の主な成果と課題は次のとおりである。

成 果

- 年間指導計画に言語活動の構造化を図った授業（課題）を位置付けたことで、課題を解決するために必要な知識・技能と課題のつながりがより明確になった。
- 可視化（思考ボード等）することで自分の考えをしっかりと持てるようになり、自信を持って、他者に対してわかりやすく説明できるようになった。
- 活用カードを用いたことで、課題解決のために用いる根拠が明確になり、視点をはっきりもって考えることができるようになった。
- 「言語活動の構造化」、「可視化」、「活用カード・シート」、「学びの振り返り」により、基礎的・基本的な知識・技能の活用に対する意識が高まったり、授業における過程を経ていくごとに思考・判断・表現の高まりや深まりが見られたりするようになった。
- 身に付いた知識・技能の確認、自分の思考の過程の整理、思考の変容の意識等を生徒がするようになった。

課 題

- これまでの研究実践を生かし、言語活動の質を高める手立てについて、教科、単元、課題等に適した開発や工夫を継続する必要がある。
- 言語活動の構造化を図った授業を計画する段階で、生徒が自分の学びを振り返る場面の位置づけを十分に検討する必要がある。

観点1-2 学ぼうとする意欲・態度の育成

生徒の学習意欲を高めるとともに、基本的な学習習慣や態度を育成できているか。

(1) 生徒一人一人に自己の学びを認識させる工夫

観点1-1で紹介した「学びの振り返り」により、生徒一人一人が、学習を通してどのよう

な力が身についたのか明確に認識させ、自分の成長を自覚させることで学習意欲を高められる。その実践事例（1年国語）を次に示す。

また、学習意欲を高めることで、休み時間や休日の読書が習慣化したり、家庭での予習・復習が定着したりする等、家庭等でのよりよい学習習慣や態度も育成できると考えている。

学習指導の実際（資料1-2-①）

—第1学年国語 単元「友達のよさを紹介する」—

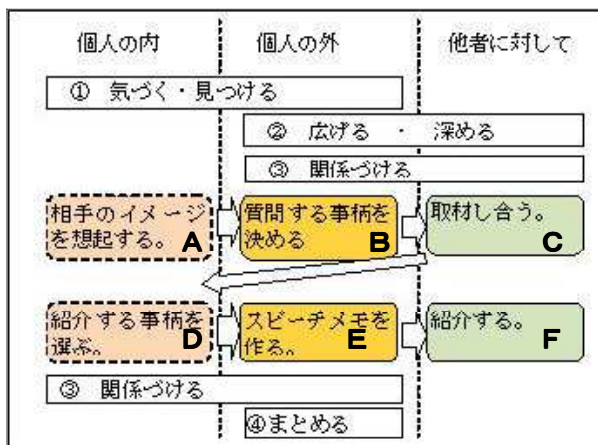
個人の内で行われる学習活動（A，D）個人の外で行われる学習活動（B，E），他者に対して表現される学習活動（C，F）を、右図のように構造化した。

A 自己紹介カードや文集，学校生活で得た情報などから，自分が相手に対して持っているイメージを想起して書かせる。

B 付箋を使って整理しながら，質問する事柄を決める。

C 対話を通して取材し合う。
取材のモデルを示す。

授業者が校長先生と対話したビデオを見せ，留意点を考えさせる。取材する際には，次の点に留意させる。



単元「友達のよさを紹介しよう」
学習過程構造図

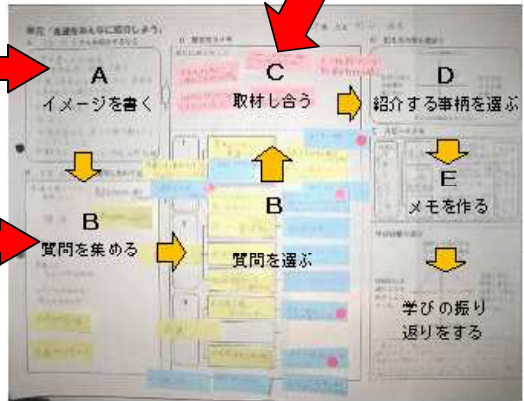
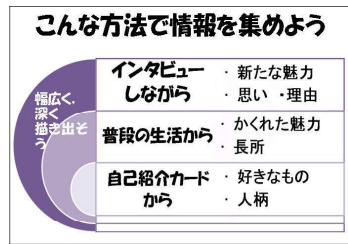


- 活用カードを示し，スピーチの全体像を描きながら質問させる。
- 裏付けとなるできごと，理由，思いなどをくわしく聞かせる。
- 友達への取材から得られた事実は水色の付箋に，その事実を通して友達をどのように理解したのかという話し手の感想や意見はピンクの付箋に書き出させる。
- 対話を通してわかりにくいことを質問したり，確認したりさせる。

【参考】ワークシートと活用カードの例

次のとおり、学習過程が一覧できるようなワークシートを使用した。学習活動を支えるために、考え方の視点や活用させたい知識・技能などを活用カードとして提示した。

- インタビューの極意**
1. アイコンタクトで和やかに
 2. 5W1Hを聞く
(いつ、どこで、誰が、なぜ、どのように)
 3. 何が変わったか、どう感じているかも聞く
 4. 項目ごとにメモをとる
 5. 内容の確認をすることも忘れずに
 - 6.
 - 7.

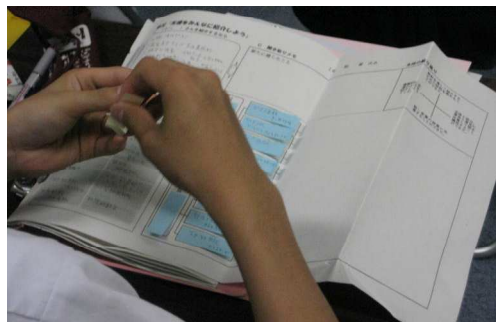


話題から掘り下げて聞いていこう

話題	裏付けできること	理由	結果・思い	感想・意見
ほ子親か供議のりのときから無鉄砲で	小学校にいる時分、学校の二階から飛び降りて、一週間ほど腰を抜かしたことがある。	いくらいばっても、そこから飛び降りることはできまい...とはやされたから	人におおさって降った。	魚けす嫌いで、人からおぼされると思つて、いられない性格です。失敗の要領には「坊ちゃん」なりの理由があり、そこで共通できる「感謝や愛情をうまく表現できないけれども、まっすぐな情に厚い人だと思えます。」
	西洋製のナイフで右の手の親指の甲をはずに切り込んだ。	おやじに「二階ぐらいから飛び降りて腰を抜かす奴があるか」と言われた	この次は抜かさず飛んでみせまうと答えた	
隣が勤太郎を短杖の向こうへ倒してやっった。	西洋製のナイフで右の手の親指の甲をはずに切り込んだ。	友達に切れそうもないと言われたから。	傷度は死ぬまで消えぬ。	母がわびに行つた。
	隣の勤太郎を短杖の向こうへ倒してやっった。	短杖を乗り越えてくりを盗みに来るから	母がわびに行つた。	
いがかつて非常にかわ	人のいないときに「あなたはまっすぐでよいご気性だ」とほめられた。		今となっては十倍にして返してやりたいと思えない。	
	自分の小遣いできんつばや紅梅焼きを買ってくれる。			

夏目漱石「坊ちゃん」より

付箋による質問項目の整理と可視化



D 紹介する事柄を選ぶ。

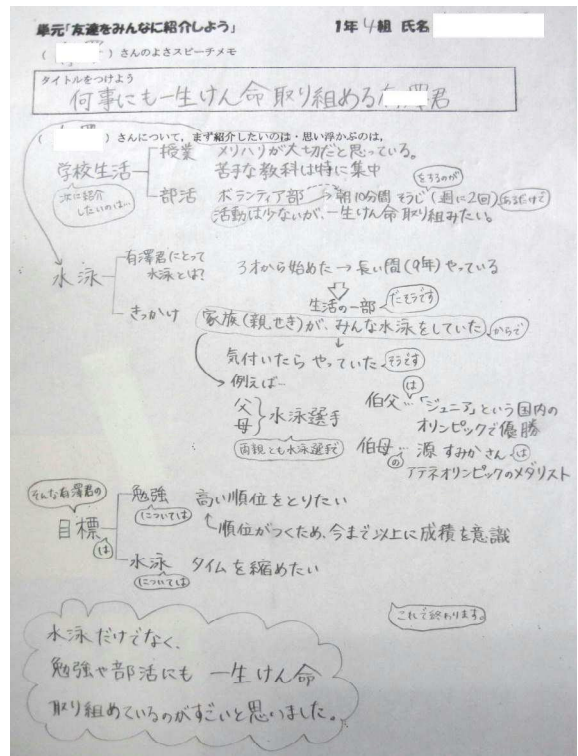
紹介する相手の人柄がよく表れているエピソード、聞いてみて自分がおもしろいと思ったこと、意外だと感じたこと、クラスの人が興味を持ったり、共感したりしてくれそうなこと、取材した相手も楽しんで聞けそうなことを選び、シールを貼る。

E 紹介する事柄を整理し、スピーチメモを作る。

構成を考える際には、次の点に留意させる。

- 何の話かを先に言う、項目立てる、一文を短かくする。
- 事実と意見を分け、自分の感想を添える。
- 必要があれば再対話をさせる。

学習者Kはスピーチメモを新しく作り直している。いずれも、話す言葉をすべて書くのではなく、思考をまとめるためのキーワードを書き出すようにした。



学習者Kのスピーチメモ

F 発表会をする。

学習者Nのスピーチは次のようであった。
タイトル「一生懸命取り組むMくん」

Mくんについてまず紹介したいのは、明るく、何事にも一生懸命取り組んでいることです。

Mくんは、小学校3年生から書道を習っています。そして、今までに毛筆4段、硬筆3段という結果を残してきたそうです。こんなに段が上がってこられたのは、課題が難しくなってきたり、がんばって練習して、段が上がることに喜びを感じていたからだそうです。書道教室をやめた今でも、家で毎日1時間練習しているそうです。書道以外にも料理や工作にも挑戦しているそうです。それは、将来に役立てるようになるためだそうです。

最後に、Mくんが考えている将来について聞きました。Mくんは、今まで挑戦したことのないことにもチャレンジして、社会に役立ち、子どもに喜ばれる人間になりたいそうです。わたしは今回、Mくんのよいところをたくさん知ることができました。中でもわたしが一番驚いたことは、将来のことまで考えて、さまざまなことに挑戦していることです。わたしはあまり将来のことまで考えて行動できていないような気がするので、Mくんのように考えて行動していきたいです。

学習者Nのスピーチにおける「話すこと・聞くこと」の観点別学習状況評価

観点①「取材を通して友達のよさを集めている。」

①何事にもチャレンジしていること、②部活、③将来を質問項目として準備していたが、取材の中で④小学校の思い出を新たにに加えている。

質問①何事にもチャレンジしていること（書道、工作、料理）では書道に着目し、「Mくんにとって書道とは」、「どうしたらあきらめずに続けられるのか」、「書道を続けてきてよかったこと」と具体的に聞き出している。 評価A

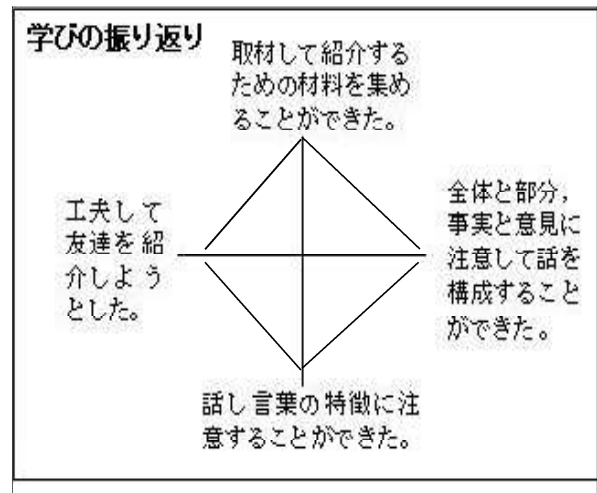
観点②「全体と部分、事実と意見の関係を注意して話を構成している。」

書道を軸にMくんのよさを描き出し、社会に役立ち、子供に喜ばれる人間になりたいという将来像につなげている。取材したことと自分の感想を分けて話を構成している。 評価A

○ 学びの振り返りをする。

何を学んだのか、どのような力がついたのかを自覚することが、次の学習につながる。そこで、学びの振り返りを行い、次に生かしたい力を意識させた。

振り返りの観点は、目標に対する達成度をバランスシートに示すとともに、自由記述を行った。



学習者Nの記述

〇〇くんの良いところを知り、また、たくさんの人に紹介できたので良かった。しかし、■■くんは友達との関係について聞いてほしかったそうなので、そのようなことについてもっと〇〇くんに関き、紹介できれば、もっと良い発表になったと思う。

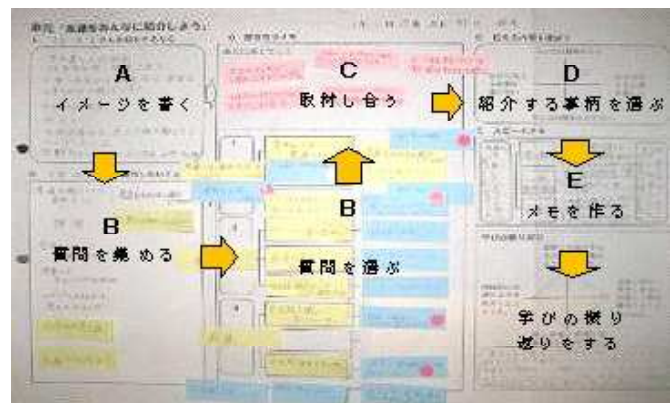
学習者Kの記述

自分が発表して少し緊張しました。文章を読むのと、メモを見て発表するのは違うと思います。箇条書きになっていることをつなげるのはたいへんでした。でも、有澤くんのよさを伝えることができたと思うので、よかったです。自分が発表してもらって、少し照れくさかったです。わたしがダンスに情熱を持っていることや体操が得意なことがよく伝わるスピーチだったと思います。

研究成果（課題については観点1-1）

○ ワークシートによる学びの可視化

課題解決に向けて、自分の考えをしっかりと持たせるためにワークシートを工夫し、生徒の思考・判断・表現の可視化を図った。学習の流れを一枚のワークシートにまとめ、付箋を使って思考を整理できるようにした。ロジックツリーを提示し、スピーチの構成を意識させることで、何をどのように掘り下げて聞けばよいかの見通しを持たせることができた。



生徒が自らの思考・判断・表現を自覚して学習活動を進められるとともに、授業者もどこで指導すべきか捉えることができた。

○ 活用カードによる学びの蓄積

①考える道筋や視点を示した活用カードと、②課題解決のために活用したい知識・技能をまとめた活用カードを作っていた。①考える道筋や視点を示した活用カードは主に授業者が示し、②課題解決のために活用したい知識・技能をまとめた活用カードは主に学習者が学

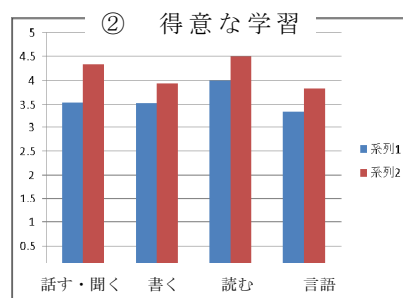
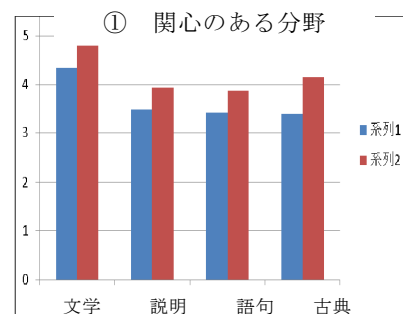
びに応じて作っていった。

活用カードを「知の集積カード」となるよう改良した結果、どの視点から、どのように考えていけばよいか、どの知識・技能をどう生かすことができるのかを明確にすることができた。

○ 学びの振り返りによる学びの自覚

学習記録や生徒自身の振り返りによる評価を工夫し、「学びの振り返り」を位置づけることで、自分の学び方や考え、どのような力がついたかを自覚化し、次の学習へのつながりをもたせることができた。

バランスシートによる調査は、全項目で自己評価が高くなっているが、特に古典に対する関心と、「話すこと・聞くこと」が伸びている。聞き取りテストの正答率も 81.6 % から、93 % に伸びている。4月の聞き取りテストの課題は、電話での会話を聞いて、①訪問先の会社のマーク、②訪問の目的、③道順などを聞き取る内容であった。それに対し12月の課題は、説明文を聞いて、①研究の動機、②仮説、③研究方法、④考察に分けるものであった。聞き取る内容の抽象度が上がり、難しくなっているにもかかわらず、正答率が上がったことから、「聞くこと」の身に付けるべき力が付いたといえる。



左棒グラフは4月、右棒グラフは12月

○ 友達のよさを伝える活動の長所

単元「友達のよさを伝えよう」では、交流活動の形態を対話にすることで、相手への関心を育て、相手の立場に立った取材をさせることができた。自分では伝えにくいと思っている自身のよさを紹介してくれてうれしかったと感じた学習者が多かった。

(2) 大学と連携した魅力的な授業の実践

生徒の学ぼうとする意欲を引き出し、自ら学習しようとする態度を育成するために、生徒の知的好奇心を喚ぶような魅力的な授業を受けさせたいと考え、本年度も次のとおり、国際理解、思春期の心の問題、からだのこと、科学的・論理的な思考、音楽など、本学の先生方より多彩なご講義をいただいている。ほぼ毎回、生徒から質問が寄せられ、学ぶ喜びに満ちたものとなっており、普段の授業とは違う知的な喜びを味わわせることができている。開かれた学校が重視される中、本校が有する人的資源を有効活用し、こうした授業を展開することは、学校マネジメント上もたいへん効果的であると考えている。

平成24年度LFタイム実施状況（資料1-2-②）

月 日(曜)	講師(敬称略)	担当講座	演 題
7/ 9 (月)	田中 弘之	附属部長	知っているようで、知らない自分の身体
7/ 19 (木)	高島 稔之	本校 OB	附中の歴史
9/ 20 (木)	田村 和之	現代教育	太陽系の距離を測ってみよう
10/ 4 (木)	太田 直也	現代教育	ロンドンあれこれ
10/25 (木)	前田 英雄	家 庭	食物と肥満について
11/ 1 (木)	近森 憲助	国際教育	ザンビアの学校
11/22 (木)	森 正	音 楽	大学院生によるミニコンサート
12/ 6 (木)	井上 菜穂	社 会	社会科の評価
12/13 (木)	栗飯原 良造	臨床心理	ひとりをほっとさせること
1/17 (木)	阪根 健二	学校経営	防災・減災を考える ～ 阪神・淡路大震災 東日本大震災より～
2/ 7 (木)	山下 道郎	外部講師	インターネットを安心・安全に使うために
2/14 (木)	藤原 伸彦	教員養成	学びを学ぼう

平成24年度2学年総合的学習における課題探究学習（資料1-2-③）

1 趣旨

大学との連携を生かした課題探求学習を設定し、各教科で身につけた基礎的・基本的な知識・技能をもとに発展的な学習を行うことで、思考力・判断力・表現力を育成する。

2 実施学年 2学年

3 実施日（5校時・6校時に実施：計8時間）

- ① 11月 6日（火） ② 11月13日（火） ③ 11月20日（火）
 ④ 11月27日（火）

4 学習内容

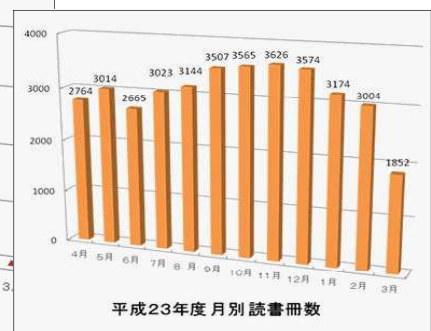
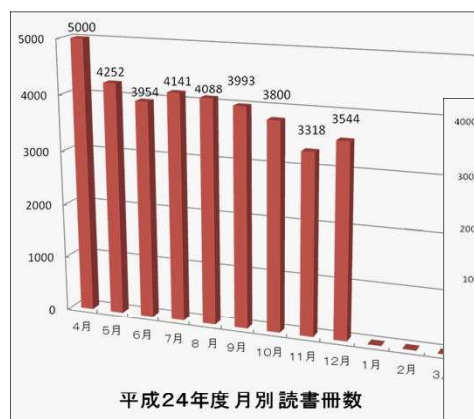
教 科	単元名	具体的な学習内容
国	絵本の読み聞かせ	絵本の読み聞かせを通して課題を見つけ、友達と協力しながら解決していく活動を行います。
数	数学を楽しもう！	① 統計のはなし：先頭の数字は何？ ② 石取りゲームの整理

		③ 対称性を生かした図形分割パズル ④ グラフのように歩いてみよう
理	染色の不思議を解明しよう！	藍と身のまわりの植物を用いて、染色のしくみを調べます。条件を変えると、色や濃さなどの染まり方がどのように変化するか、実験をして確かめます。
英	英語版附属中学校学校案内を作ろう	附属中学校には毎年たくさんの外国からのお客様が来られます。その方々のための英語版学校案内を制作します。
音	三味線 on the stage !!	三味線アンサンブルに挑戦します。目標は12月24日に郷土文化会館で開かれる演奏会出演です。
美	生活の中に美を生かそう	陶芸を行います。自分の生活の中で使用するものを自らの手で制作し、機能美・装飾美を追究します。
体	剣道の試合において攻防を楽しもう！	基本となる技や応じ技などの発展的な技を学び、試合形式を工夫しながら相手との攻防を楽しむことをねらいとします。
技	最先端の技術を学ぼう	模擬学術講演会形式で、技術に関するディスカッションを行います。
家	知っとこ！ 幼児の食生活と家族の役割	幼児のおやつの一歩の必要性や調理の工夫、家族の役割について、調理実習を通して学びます。 ※調理実習費が必要となります。

(3) 読書習慣の確立

鳴門教育大学附属中学校
日本一周読書の旅

プロジェクトについて 月別読書冊数



平成24年4月から12月まで

36,090冊

平成23年4月から12月まで

28,882冊

本校においては、毎朝 8:30 ~ 8:40 までの 10 分間、朝の読書タイムを設け、読書習慣を確立

させる手立てとしている。また、平成 21 年度から「日本一周読書の旅」プロジェクトに取り組んでおり、歴代の生徒が受け継いでいく新しい伝統になりつつある。これは、読書しながら日本一周しようというもので、生徒はもとより、教職員・保護者も参加している。旅の距離は、文庫本一冊の長辺を 15 cm として、読書の冊数を掛けて算出し、旅の路線は JR として、この一年どのあたりまで進むかを楽しんでいる。

なお、このプロジェクトの集計結果は、本校HPにおいて閲覧できる。

このほかにも、本年度は、司書補佐員（パートタイム勤務）を配置することができ、図書館の効果的な運営・管理に当たっている。

読書冊数は、学ぼうとする意欲・態度の表れとして一つの目安になると考えている。そこで、「日本一周読書の旅」プロジェクトによる昨年度と本年度の読書冊数(生徒+保護者+教職員)を比較してみると、【24年度】36,090冊－【23年度】28,882冊＝7,208冊増加している。

2 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

平成 24 年 4 月 17 日に実施した全国学力・学習状況調査の結果（以下、全国調査の結果と表記）は次のとおりである。このように、国・数・理のいずれも平均正答率は、全国国立平均を上回っている。また、「よくわかる授業・主体的に考える授業が行われていると思う生徒」や「言語活動を意識して学習している生徒」の割合が、ほとんどの質問項目で前回調査（平成 21 年度調査）や全国国立平均を上回っている。

質問紙調査の調査対象

全国		全国国立		本校生徒（3 学年） 154 名
生徒数	学校数	生徒数	学校数	
442,264	4,470	6,282	47	

- 「普段の授業では本やインターネットを使ってグループで調べる活動をよく行っている・どちらかといえばよく行っている」と回答した生徒が前回調査より 16.0 ポイント増えている。
- 「普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられている・どちらかといえば与えられている」と回答した生徒が 4.5 ポイント増えている。
- 国語（A：主として知識を問う問題）の平均正答率は全国国立平均より 2.9 ポイント高い。
- 国語（B：主として活用を問う問題）の平均正答率は全国国立平均より 2.2 ポイント高い。
- 「国語の勉強が好きである・どちらかといえば好きである」と回答した生徒が前回調査より 10.6 ポイント増えている。
- 「国語の授業内容がよくわかる・どちらかといえばよくわかる」と回答した生徒が前回調査より 7.7 ポイント増えている。
- 「読書が好きである・どちらかといえば好きである」と回答した生徒が前回調査より 7.2 ポイント増えている。
- 「国語の授業で目的に応じて読み、自分の考えを話したり、書いたりしている・どちらかといえばしている」と回答した生徒が前回調査より 17.2 ポイント増えている。
- 「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由がわかるように気をつけて書く・どちらかといえば書く」と回答した生徒が前回調査より 18.9 ポイント増えている。
- 「問題にあるような長い文章を読むことは難しいと思わない・どちらかといえば思わない」

と回答した生徒が前回調査より 18.9ポイント減っている。

- 数学（A：主として知識を問う問題）の平均正答率は、全国国立平均より 7.1ポイント高い。
- 数学（B：主として活用を問う問題）の平均正答率は、全国国立平均より 6.9ポイント高い。
- 「数学の勉強が好きである・どちらとえば好きである」と回答した生徒が前回調査より 11ポイント減っている。ただし、全国国立平均よりも 3ポイント高い。
- 「数学の授業内容がよくわかる・どちらかとえばわかる」と回答した生徒が前回調査より 3.1ポイント減っている。ただし、全国国立平均より 9.9ポイント高い。
- 「数学の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える・どちらとえば考える」と回答した生徒が前回調査より 3.2ポイント増えている。
- 「数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしている・どちらとえばしている」と回答した生徒が前回調査より 6ポイント増えている。
- 「数学の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いている・どちらとえば書いている」と回答した生徒が前回調査より 8.8ポイント増えている。
- 理科（A：主として知識を問う問題）の平均正答率は、全国国立平均より 5.3ポイント高い。
- 理科（B：主として活用を問う問題）の平均正答率は、全国国立平均より 1.7ポイント高い。
- 「理科の授業内容がよくわかる・どちらかとえばよくわかる」と回答した生徒は全国国立平均より 7.7ポイント高い。
- 「理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりする・どちらとえばする」と回答した生徒は全国国立平均より 2.9ポイント高い。
- 「観察や実験を行うことが好きである・どちらとえば好きである」と回答した生徒は全国国立平均より 5.1ポイント高い。

ほかにも、文部科学省「平成23・24年度教育課程研究指定校事業」の指定を、国語・数学・社会・理科・保健体育の5教科で受託し、各教科年1～2回、教科調査官に研究授業を見ていただくなど積極的に研究を進めている。また、この取組及び成果を平成25年2月に公開開催された「平成24年度国立教育政策研究所教育課程研究センター関係指定事業研究協議会」において発表し、広く普及している。

【改善点】

改善点としては、普通教室にプロジェクターが備え付けられていない等、ICTを活用した授業を行う環境が十分ではない。研究開発学校として最先端の研究を進めるためには、デジタル教科書、電子黒板、生徒用タブレット端末等を活用した言語活動等が行えるICT環境を早急に整備する必要がある。

なお、こうした環境整備を進めるとともに、さらなる授業改善に努め、生徒一人一人にとって学ぶ喜びに満ちた「楽しい学校」づくりを強力に推し進めたい。

3 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階中の「A 十分達成されている」と判断する。

自己評価の基準	A 十分達成されている
	B 達成されている
	C 取り組まれているが、成果が十分でない
	D 取り組みが不十分である

* 評価項目ごとの自己評価の基準は、以下同じ

評価項目2 美しい学校

人権教育の視点に立って、学校・学級への帰属意識や自尊感情を高める新しい教育課程の創造に努める。また、環境美化に努めることはもとより、教師間、教師と生徒、生徒間等において、適切にコミュニケーションできる環境を構築し、「美しい言語環境」の中で安心して過ごせるようにする。

1 観点ごとの分析

観点2-1 適切なコミュニケーション [美しい言語環境]

教師間、教師と生徒、生徒間において、適切にコミュニケーションできる環境や安心できる人間関係が構築できているか。

(1) 適切な言語活動を引き出す工夫

評価項目1「楽しい学校」で述べた「言語活動の充実」に向けた取組に加え、NIE (Newspaper in Education = 「エヌ・アイ・イー」)。学校などで新聞を教材として活用すること。)を積極的に取り入れ、読解力を高めるとともに、新聞に親しみながら教員、家族、友人との対話を深める等、コミュニケーション力を高めている。

特に、3年生においては、自分が興味を持った新聞記事を切り抜いてノートに貼付【写真右】し、その記事について自分なりの考えを記述した上で担任に提出する取組を続けてきた。この取組を通して、人権侵害が原因となって事件・事故が起こっていることに気付かせ、身近な人権問題として捉えさせることもできた。また、NIEの一環として、新聞記者をゲストティーチャーに招いて、人権の視点を持った記事の起こし方や記事の背景の読み取り方を学ばせてもいる。



(2) 対人関係性の育成 (予防教育の推進)

昨年に続き、鳴門教育大学予防教育科学センターが開発した予防教育プログラムを1学年全学級において8時間実施し【写真右：授業の様子】、いじめや不登校など学校での問題を未然に防ぐことを目指してきた。

予防教育のねらいは次のとおりである。

- 自分自身をかけがえのない存在として認めることができ、自分の興味・関心のあることへ前向きに取り組めるようになる。
- 自分や相手の感情に気づいたり、理解する方法を学習し、自分の感情のコントロールができるようになる。



- 相手を理解し大切にしながら人との関係をつくるスキルや、自分・相手・周囲も納得できる問題解決スキルを身につける。

平成24年度1年生予防教育プログラム（資料2-1-①）

	授 業 名	目 標
1	自分とは何者か？	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己の特徴について認識することができる。 ○ 自己の長所を探ることができる。
2	学友の良さとは？	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他者の長所を探ることができる。 ○ 他者の価値を肯定することができる。 ○ 自分が気づいた他者の価値について、実際に相手に伝えることができる。 ○ 自己の価値を受容することができる。
3	わが Wish - to - do	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己の心理的欲求を満たすことの重要性を理解することができる。 ○ 自己と同様に、他者の心理的欲求を尊重することの重要性を理解することができる。 ○ 自己の心理的欲求を抽出することができる。 ○ 抽出した心理的欲求を満たすことの是非を考えることができる。
4	Wish - to - do を現実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己の心理的欲求を満たすための現実的な目標と方法を考えることができる。 ○ 自己の心理的欲求を満たすために、考案した方法を実行することができる。
5	サポートを糧に	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己の心理的欲求を満たすために必要な他者からのサポートと、その重要性を理解することができる。 ○ 自己の心理的欲求の達成に他者からのサポートが必要なとき、適切なサポートを選び、求め、受けることができる。
6	挑戦を支えるもの	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己の心理的欲求を満たすための行動について、挑戦した自分を肯定することができる。 ○ 他者が行った心理的欲求を満たすための行動について、挑戦したことを肯定することができる。
7	挑戦から得たもの	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己の心理的欲求を満たすための行動がもたらした結果について、良い面をとらえることができる。 ○ 他者が行った心理的欲求を満たすための行動がもたらした結果について、良い面をとらえることができる。
8	まとめ	

【参考】保護者周知文書

Confident 通信

平成 25 年 1 月 25 日
 鳴門教育大学附属中学校
 1 年生の保護者の皆様

"confident" (コンフィデント)には、"自信がある"という意味があります

1 年生では、1 月 18 日から、子どもたちのすこやかな心の成長をうながすための教育として、「自己信頼心(自信)の育成」の授業を行っています(全 8 時限の予定)。
 この教育は、鳴門教育大学予防教育科学センターが進めている、TOP SELF(トッセルフ)という教育プログラムの中のひとつです。TOP SELF についての詳細は、センターのホームページに掲載されていますので、どうぞご参照下さい(「予防教育科学」で検索していただくと、すぐアクセスできます)。
 今回は、この授業についてご紹介いたします。

*** 授業担当者 *** *鳴門教育大学 予防教育科学センターから授業者が参ります。

【1 組】 稲田 衣利子 研究補佐員	・内田 香奈子 専任講師
【2 組】 佐々木 恵 准教授 臨床心理士 他	・安藤 有美 研究補佐員
【3 組】 安田 小蘭 研究補佐員 臨床心理士	・森 優貴 研究補佐員
【4 組】 本田 尚三 研究補佐員	・佐々木 智美 研究補佐員

◇担任の先生方にも授業実施にご協力いただいております。

*** 授業概要 ***
 この授業では、お父さまが自分自身をかけがえのない存在として受けとめ、興味・関心のあることに前向きに取り組み、自ら自信を高めていくことを目標として行われます。自分の良いところをさがしたり、クラスメイト同士で互いの良さを伝え合ったりすることで、自分の強みに気づくことができます。誰にでも苦手なことや課題はありますが、自分の強みを知ることで、より良い自分を目指してチャレンジする意欲を高めていくことができます。また、チャレンジの過程で、自分が取り組んだことに対する様々な意義を見出して行くことでしょう。

◇授業の様子

第 1 回「自分とは何者か？」
 出発点として、自分の特徴・個性について考え、自分の強み・良さを探しました。



第 2 回「学友の良きとは？」
 グループ・メンバーの良さを探してお互いにプレゼントしました。自分では気づかないような良きも見つけてくれましたね。



新式部のペンダント
 ゲットを目指して、
 宝箱につまった
 良き・強みをアピール!



この良きの持ち主は誰?グループ
 対決で予想しながら、さらにクラス
 メイトの良きを見つけました。



◇「星空を見上げて」この授業では、3 人の登場人物や様々な歴史上の人物と一緒に勉強しています。

つむぎは中学 1 年生。「自分にはとれない」と、星空を見上げてため息をついていると、突然、平安時代へワープ。いろいろな人との出会いの中で、つむぎは何を見出して行くのでしょうか? 現代に戻る日は来るのでしょうか?





ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

TOP SELFとは、鳴門大 予防教育科学センターで実施する教育プログラムの総称で、いのちと友情の学校予防教育(Trial Of Prevention School Education for Life and Friendship)の略です。「最高の自分」という意味もあります。

(3) 人権教育の充実

平成 24 年 1 月 8 日(木)に徳島市・佐那河内村人権教育研究大会が本校を会場として実施され、全学年・学級が人権教育の公開授業及び研究協議を行った。この研究大会を契機として、本校の人権教育全般について見直しも行った。その中で、外部から指導者を招き実体験を語って頂いたり、校外学習に体験的な人権学習を取り入れたりした実践を行っている。

① 徳島大空襲に学ぶ【写真右】

(県立文書館：徳野隆先生)

[生徒感想]: 戦災のすさまじさ、命の尊さ、支え合ってたたくましく生きぬいた郷土の人々への敬意、戦争体験を語り継ぐことの重要性などを学びとった。

- 16 -

② 命の大切さを学ぶ教室【写真右】

(少年犯罪被害当事者の会：武るり子さん)

[生徒感想]：犯罪被害者の人権が守られない現実，かけがえのない命の重さ，人とつながることのすばらしさ，身近な大人に助けを求めることの重要性，普段から家族や友達と話すことの大切さを学んだ。



③ ふれあいコンサート【写真右】

(陸上自衛隊第十四旅団による復興支援活動に関する講話と第14音楽隊の演奏)

人の役に立つことや強く生きぬくことの大切さ，災害時のための物心の備え，果たすべき役割や行動について深く考える機会になった。また，心を温め励ます演奏に触れた。



④ 教科の体験的活動例【写真右下】

英語科において仲間へのメッセージを書き，人権の歌を創作し，文化祭等で発信した。



⑤ 常時指導

玄関の黒板に教師からのメッセージを書いたり，学年だよりで人権学習の様子を伝えたり，学習内容を家庭の話題として共有してもらったりしている。

⑥ ヒロシマ現地研修や「無言館」出前授業を取り入れた1学年の取組



第1学年は，宿泊活動の一環であるヒロシマ現地研修【写真上左】に向けて「無言館」の出前授業やメッセージキルト制作【写真上右】をはじめとする平和のための学習を積み重ねていき，公開授業では「生命の尊重」をテーマに「私たちの平和宣言」の授業を公開した。それまでの学習を基に，一人ひとりが言葉を出し合って，思いを語り合い，一つの平和宣言につくりあげていった。



⑦ 人権博物館「リバティ大阪」での研修や模擬県議会を取り入れた3学年の取組

第3学年は、義務教育の出口に立つ生徒たちの、社会性、市民性を養うため、社会の一員として、差別の現実を見つめ、差別解消のために立ち上がり行動する態度を養うことを目指した。道徳や学活では、就職差別解消や男女共同参画社会、「峠」等についての学習を重ね、校外学習では、人権博物館「リバティ大阪」【写真上左】を見学し、在日コリアンの人権について学んだ。



公開授業では、「人権の歌」の歌唱に始まり、総合的な学習の時間に取り組んできた「人権が守られる社会の実現を目指して-徳島未来構想-」の最終段階として「いじめ問題」をテーマとした模擬県議会【写真上右2枚】を公開した。この模擬県議会までには「新聞記事と人権」の出前授業に学び、徳島の現状と課題を新聞記事その他から読み取り分析し、課題解決のための政策プランを立てていった。また、10委員会からなるクラスごとの党を立ち上げ、その理念に基づいて、議案を提示し討議もしている。

1 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

全国調査の結果は次のとおりである。このように、人権意識や対人関係について好ましい回答をしている生徒の割合が、ほぼすべての質問項目において全国国立平均及び前回調査を上回っている。

- 「人の気持ちが分かる人間になりたい・どちらとさえなりたい」と回答した生徒が前回調査より 3.2ポイント増えている。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけない・どちらとさえいけない」と回答した生徒が前回調査より 5.7ポイント増えている。
- 「近所の人に会ったときはあいさつをしている・どちらかといえはしている」と回答した生徒が前回調査より 7.9ポイント増えている。
- 「学校で友達に会うのは楽しいと思う・どちらとさえ思う」と回答した生徒がほぼ全員

であり前回調査より 4.5 ポイント増えている。

- 「家の人と学校での出来事について話をしている・どちらかといえばしている」と回答した生徒が前回調査より 4.1 ポイント増えている。

他にも、こうした取組により、NIEでは日本新聞協会「第3回いっしょに読もう！新聞コンクール」学校賞・奨励賞を受彰したり、人権学習では「H24 人権に関する児童生徒の作品、作詩・作曲部門」知事賞や警察庁「給与厚生課長賞」を受彰したりしている。

【改善点】

不登校生徒が本年度7名（12月現在）、悪口や陰口、無視等のいじめを訴える生徒が全校で23名（7月無記名調査【非公開】）いる。不登校生徒については、担任を中心に保護者・生徒と十分な話し合いの時間を持つ等、丁寧な対応に努めており、3年生においては昨年まで不登校であった生徒2名が登校できるようになるなど成果も伺える。また、いじめについては、夏休みの生徒・保護者面談（三者面談）の機会を捉えて聞き取りを行っている。さらに、いじめに関して訴えがあった生徒に対しては、担任はもとより学年団・管理職が一体となって組織的に対応している。

今後も「必ずいじめはある」という認識のもと、予防教育を継続し適切な対人関係を意識させたり、人権学習を充実させ人権感覚を高めたりする取組を推進する必要がある。

3 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階中の「B 達成されている」と判定する。

評価項目3 活力ある学校

生徒の意欲的・主体的な活動を充実させる。そのために、保護者と連携して生徒の基本的な生活習慣の確立を図るとともに、教師一人一人が責任感・使命感を持って教育活動を進める。また、教育研究、教育課題の解決においては、教師集団として協働し学校組織を生かした取組を行う。

1 観点ごとの分析

観点3-1 信頼され支え合う教師集団

教師一人一人が責任感・使命感を持って教育活動を進めているか。また、教育研究、教育課題の解決においては、教師集団として協働し学校組織を活用した対応を行っているか。

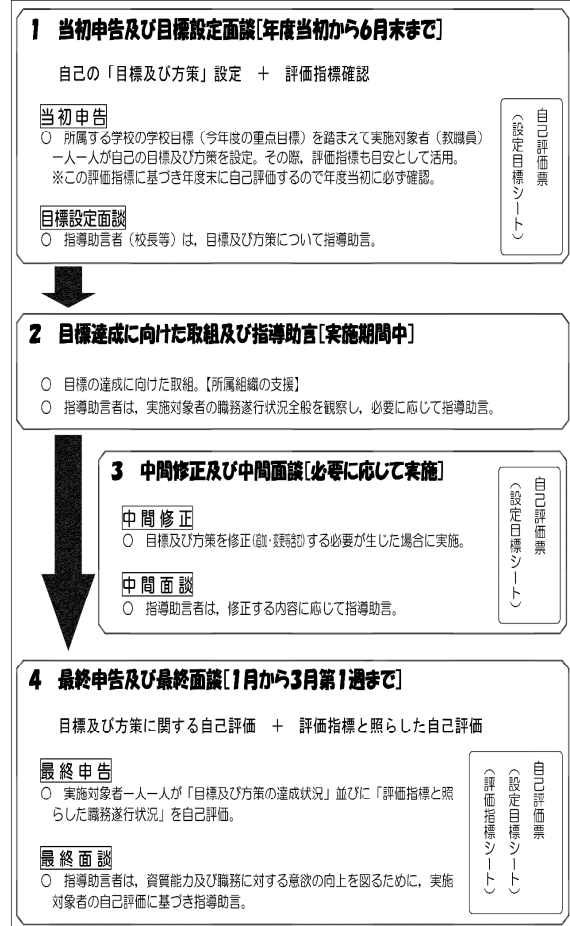
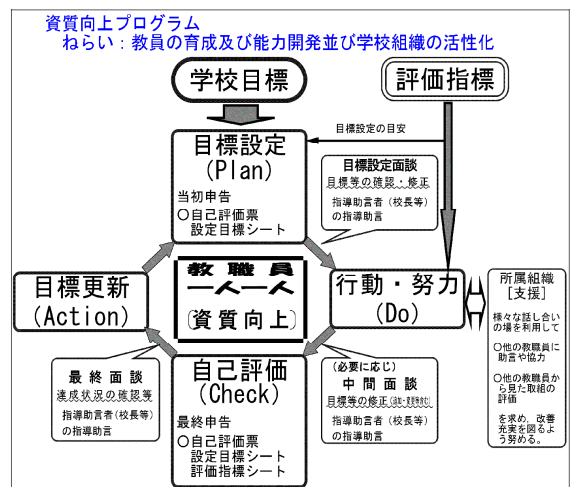
(1) 学校目標達成に向けた全教員による取組推進と教員一人一人の資質向上（資質向上プログラムの実施）

本校では、教員の育成及び能力開発並びに学校組織の活性化をねらいとして、本年度から資質向上プログラム【右図】を実施している。

資質向上プログラムとは、年度当初に、教員一人一人が学校目標（楽しい学校、美しい学校、活力ある学校）を踏まえて自己目標を設定し、校長等の指導助言や所属組織の支援を得て、その達成を図るとともに、年度末には、その「自己目標の達成状況」及び「評価指標と照らした職務遂行状況」を自己評価するプログラムである。

資質向上プログラムを実施することで、次の効果が期待でき、「教職員の資質向上」ひいては「児童生徒に対する教育の質の向上」につながると考えている。

- 各教職員の目標や課題の明確化
- 工夫を凝らした教育活動の充実
- 教職員の主体的・意欲的な取組の促進
- 職務遂行上、必要な能力の認識
- 教職員の指導・育成



資質向上プログラムの様式（資料3-1-①）

資質向上プログラム

①設定目標による自己評価

+

②評価指標による自己評価

自己評価票【設定目標シート】

自己評価票【評価指標シート】

「本人が設定した目標及び方策の達成状況」を自己評価

「評価指標と照らした職務遂行状況」を自己評価

【様式第1号その3】 平成 年度 自己評価票（設定目標シート）

主幹教諭・指導教諭・教諭用 当初申告 平成 年 月 日 最終申告 平成 年 月 日 (番号)

ふりがな氏名	生年月日	年 月 日	年齢	職	学校名	職名
教科指導	担当教科 (学年)	週担当 授業時数	時間	教科外指導	校務分掌	
学校目標 (今年度の重点目標)						
評価項目	当初申告	目標の修正・追加・変更等	最終申告	成果・反省	評価	次年度への課題
学習指導						
児童生徒指導等						
学級経営・学校運営・その他						
研修	今年度の目標・計画	今年度の成果及び今後の課題	特記事項			

【様式第2号その5】 平成 年度 自己評価票（評価指標シート）

教諭用 最終申告 平成 年 月 日

学校名	職名	氏名	番号	
評価項目	評価要素	着眼点	職務遂行上必要とされる水準 (例示)	評価
学習指導	能力	知識・技能、理解力、判断力、企画・計画力、指導力	専門的な知識・技能を活用し、適切な指導計画を作成するとともに、課題に応じて児童生徒に対してきめ細かな指導ができる。	
	実績	達成度、正確性、迅速性	指導計画に基づいて指導を実施し、児童生徒の学習意欲を高め、学力の定着・向上を図った。	
	意欲	規律性、責任感、積極性、協調性	児童生徒理解に努め、指導方法の工夫・改善に積極的に取り組んでいる。	
児童生徒指導等	能力	知識・技能、理解力、判断力、企画・計画力、指導力	保護者や関係機関との連携のもと、課題に応じて児童生徒に対してきめ細かな指導ができる。	
	実績	達成度、正確性、迅速性	教職員と児童生徒、児童生徒相互の信頼関係を築くとともに、児童生徒の主体的に判断し行動できる能力を育成した。	
	意欲	規律性、責任感、積極性、協調性	児童生徒の実態に応じて、課題解決に向け、粘り強く取り組んでいる。	
学級経営・学校運営・その他	能力	知識・技能、理解力、判断力、企画・計画力、折衝・調整力、指導力	児童生徒の実態に応じて、適切に指導し、望ましい集団づくりに取り組むとともに、校務の処理を適正に行うことができる。	
	実績	達成度、正確性、迅速性	学級経営や分掌上の校務について課題解決に取り組み、学校運営に貢献した。	
	意欲	規律性、責任感、積極性、協調性	学校目標の達成に向けて、保護者や地域、他の教職員との連携・協力を積極的に取り組んでいる。	
特記事項				

年度初めに左側の当初申告を，年度末に右側の最終申告を記入 年度末に評価指標と照らした自己評価を□に記入

A 教員が作成した自己評価票（3-1-②）

【設定目標シート】

【様式第1号その3】 平成24年度 自己評価票（設定目標シート）

主幹教諭・指導教諭・教諭用 当初申告 平成24年 6月20日 最終申告 平成25年 1月30日 (番号)

ふりがな氏名	生年月日	年齢	34 歳	学校名	鳴門教育大学附属中学校	職名	教諭
教科指導	担当教科 (学年)	週担当 授業時数	21 時間	教科外指導	校務分掌	安全教育	
学校目標 (今年度の重点目標)							
楽しい学校、美しい学校、活力ある学校 <input type="checkbox"/> 授業の工夫改善 <input type="checkbox"/> 学ぼうとする意欲・態度の育成 <input type="checkbox"/> 適切なコミュニケーション <input type="checkbox"/> 清掃・整理整頓 <input type="checkbox"/> 信頼され支え合う教師集団 <input type="checkbox"/> 主体的に取り組む生徒の育成 <input type="checkbox"/> 生活習慣の重要性の啓発							
評価項目	当初申告	目標の修正・追加・変更等	最終申告	成果・反省	評価	次年度への課題	
学習指導	①数学における思考力を育成する。	①言語活動の構造化を図った授業を各単元に位置付ける。	各単元で実施する。	①教育課程研究指定校事業の取り組みとして1つの単元以外での実施ができた。	B	指定校ではなくなるが、継続して言語活動を取り入れた実践をする。	
	②基礎的・基本的な知識・技能を定着させる。	②小単元ごとに演習プリントを作成し、実施する。	気になる生徒10人は評定3以上にする。	②小単元ごとの演習プリントの実施ができ、個別指導により評定2以下の生徒はいない。	A B	演習による技能面の向上に加えて、授業中の個別指導を一層充実させる。	
	③チャイム着席を徹底させる。	③日々30秒前までに教室に行く。		③後期に少し遅くなる時があった。	B	授業準備をさせた状態でチャイム着席ができるようにする。	
児童生徒指導等	①生徒の実態把握をする。	①-1 学級の生徒には1週間に1度以上話しかける。 ①-2 放課後の数分を利用し2者面談を実施する。		①-1 比較のおとなしい生徒に対して十分なコミュニケーションがとれなかったと感じる。1名が不登校になった。	C B	いじめの早期発見や早期解決を目指すなどにより、不登校生徒を出さないよう十分にコミュニケーションを取るようにする。	
	②学年の生徒の問題行動の防	②-1 昼休み週に1度以上		①-2 2者面談は前期の一時期だけにとどまった。	B	現実的に毎日放課後に続けることは難しいので、でき	

[様式第2号その5]		平成24年度 自己評価票 (評価指標シート)			最終申告 平成25年 1月30日	
教諭用						
学校名	鳴門教育大学附属中学校		職名	教諭	氏名	番号
評価項目	評価要素	着 眼 点	職務遂行上必要とされる水準 (例示)		評 価	
学習指導	能力	知識・技能, 理解力, 判断力, 企画・計画力, 指導力	専門的な知識・技能を活用し, 適切な指導計画を作成するとともに, 課題に応じて児童生徒に対してきめ細かな指導ができる。		B	B
	実績	達成度, 正確性, 迅速性	指導計画に基づいて指導を実施し, 児童生徒の学習意欲を高め, 学力の定着・向上を図った。		B	
	意欲	規律性, 責任感, 積極性, 協調性	児童生徒理解に努め, 指導方法の工夫・改善に積極的に取り組んでいる。		A	
児童生徒指導等	能力	知識・技能, 理解力, 判断力, 企画・計画力, 指導力	保護者や関係機関との連携のもと, 課題に応じて児童生徒に対してきめ細かな指導ができる。		B	A
	実績	達成度, 正確性, 迅速性	教職員と児童生徒, 児童生徒相互の信頼関係を築くとともに, 児童生徒の主体的に判断し行動できる能力を育成した。		A	
	意欲	規律性, 責任感, 積極性, 協調性	児童生徒の実態に応じて, 課題解決に向け, 粘り強く取り組んでいる。		A	
学級経営・学校運営・その他	能力	知識・技能, 理解力, 判断力, 企画・計画力, 折衝・調整力, 指導力	児童生徒の実態に応じて, 適切に指導し, 望ましい集団づくりに取り組むとともに, 校務の処理を適正に行うことができる。		A	B
	実績	達成度, 正確性, 迅速性	学級経営や分掌上の校務について課題解決に取り組み, 学校運営に貢献した。		B	
	意欲	規律性, 責任感, 積極性, 協調性	学校目標の達成に向けて, 保護者や地域, 他の教職員との連携・協力で積極的に取り組んでいる。		B	
特記事項						

(2) 研究成果の普及

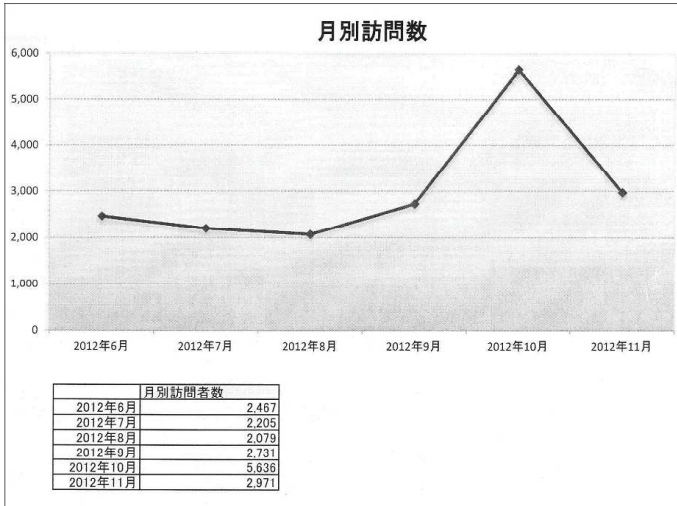
以前から, 本校教員が様々な機会を活用して本校研究内容を説明することにより, 研究成果の普及を図っている。その場合の啓発資料は, 研究紀要を購入頂くか, 紀要の関連ページをコピーする以外に資料提供の手段がなかった。そこで, 本年度は, 研究内容をA4用紙両面にまとめた概要版【右図】を作成し, これをもとに説明するようにした。

また, 平成23年度より, 本校ホームページをリニューアルし, 本校の研究内容はもとより, 学校の教育活動全般や教育課程について発信もしている。特に, 本年度は, 修学旅行や宿泊活動の現地での活動の様子をリアルタイムもしくは, その日のうちにアップするようにした。その結果, 右のグラフのように毎月 2,000 以上 (10月 は修学旅行・宿泊活動を実施) のアクセスがあった。こうしたアクセスは, 直接, 研究内容の普及と結びつくものではないが, 学校行事の閲覧を機会に本校研究も閲覧する場合が考えられる等, 多くの方に本校の活動を知って頂くことは意義深いと考えている。

平成24年度 鳴門教育大学附属中学校の実践研究について (概要版)

1 研究主題
思考力・判断力・表現力等が児童の発達
→ 児童の発達に資する思考力・判断力・表現力等の育成

2 研究内容
① 実践研究の意義
② 実践研究の概要
③ 実践研究の成果



(3) ワークライフバランスの調整

生徒の意欲的・主体的な活動を充実するためには、教員が「生徒と向き合う時間」及び「魅力的な授業を創造するための教材研究の時間」を十分確保する必要があるが、かといって、家庭や地域で過ごす時間が不足するようなことがあってはならない。本校では、こうした仕事と生活の調和推進（ワークライフバランス）が十分ではなく、教育実習や研究開発に多くの時間を割いている実態がある。このことが、生徒の意欲的・主体的な活動の充実に繋がっていることは間違いないが、あまりにも「ワーク」に偏り、教員の活力を抑制している面もある。

そこで、本年度は、次の方策により少しでも教諭等の勤務負担を軽減するよう取り組んだ。

- ノー残業デーの試行
- どこにいてもコンピュータを使った作業ができる環境の構築（事務効率の向上）
- 電子メールを活用した職員への周知（会議時間の縮減）
- いわゆる風通しのよい職員室の構築（精神的な負担の軽減）
- 保護者等からの要望に対する管理職対応（不登校対応含む）

こうした取組により、教諭等の精神的負担はいくぶん緩和されたと考えている（転勤を希望する教員は0人）。しかし、研究開発・教育実習等、附属学校の使命を果たすために軽減できない業務があまりにも多く、勤務時間の短縮にはつなげていない。こうしたことからノー残業デーの試行も2回しか実施できなかった。

観点3-2 生活習慣の重要性の啓発

保護者と連携して、生徒の基本的な生活習慣の確立を図っているか。

(1) 家庭と連携した生活習慣の確立（早寝、早起き、朝ごはん等による健康管理）

生徒が意欲的・主体的に活動する前提条件として、「早寝・早起き・朝ごはん」に代表されるような基本的な生活習慣の確立が欠かせない。そこで、生徒に好ましい生活習慣を身につけさせるために、次の取組を進めた。

- 授業参観後の学年懇談等、保護者が集まる機会を捉えた啓発
4月22日保護者会総会（校長講話の中で） 7月13日学年懇談会（資料配付）
- 保健だよりによる啓発（学級掲示）
- 保健委員による「早寝・早起き・朝ご飯」調査（調査結果は次のとおり）

質問項目	9月調査	1月調査
家を出る1時間前に起きた人	52%	37%
11時までに寝た人	28%	23%
12時までに寝た人	39%	35%
朝ご飯を食べてきた人	98%	98%

※全校生徒472名（5月1日現在）を対象に調査（調査日の転校生・欠席者を除く）

朝ご飯は、ほぼ全員が食べているが、早寝・早起きについては、過半数以上の生徒ができていない状況である。高い学力を維持するために夜遅くまで勉強したり、塾に通ったりしている生徒が多いことが原因と考えられる。特に、1月調査は、3年生が受験シーズンを迎えた影響

が大きい。

2 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

全国調査においては次のとおりの結果となっており、生活習慣の確立については、全国国立平均及び前回調査と比較すると好ましい回答をした生徒の割合が上回っている。

- 「朝食を毎日食べている・どちらかといえば食べている」と回答した生徒が前回調査より 2.4ポイント増えている。
- 午前7時より早く起きる生徒が前回調査より 18.2ポイント増えている。
- 午前0時より早く寝る生徒が前回調査より 15.9ポイント増えている。
- 睡眠時間が7時間以上の生徒が前回調査より 3.7ポイント増えている。
- 普段、1日当たり2時間以上テレビゲーム（コンピュータゲーム・携帯ゲーム含む）をする生徒が前回調査より 7.3ポイント減っている。
- 「家の人と普段夕食を一緒に食べる・どちらかといえば食べる」と回答した生徒が前回調査より 5.8ポイント増えている。

また、資質向上プログラムによる教員と管理職との面談において、学校目標の達成に向けた取組について確認したところ、ほぼ全員が目標達成に向けて意欲的に取り組んでおり、資質の向上を実感している。

【改善を要する点】

生徒の基本的な生活習慣のうち、早寝・早起きについては課題があり、特に3年生は入試があることからその解決は容易ではない。また、教職員のワークライフバランスについても、よりよい教育実践や教育実習、部活動指導を目指す以上、その調整はきわめて困難である。

今後も、事務負担の軽減等を工夫していくが、完全に解決するためには、部活動指導者や学校ボランティアを配置するなど人的配置が必要と考える。

3 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階中の「B 達成されている」と判定する。

Ⅲ 自己評価根拠資料一覧

	観点番号	資料番号	添付	別添	資料名
1	1-2	1-2-①	○		学習指導の実際
2	1-2	1-2-②	○		平成24年度LFタイム実施状況
3	1-2	1-2-③	○		平成24年度2年生総合的学習における課題探究学習
4	2-1	2-1-①	○		平成24年度1年生予防教育プログラム
5	3-1	3-1-①	○		資質向上プログラムの様式
6	3-1	3-1-②	○		A教員が作成した自己評価票